

利尻島で採集された直翅目昆虫

伊藤 元

〒 060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目 北海道大学農学部昆虫体系学講座

Notes on Orthoptera fauna of Rishiri island

Gen Ito

Systematic Entomology, Faculty of Agriculture, Hokkaido University,

Kita9 Nishi9, Kitaku, Sapporo, 060-8589 JAPAN

利尻島は、北海道の最北端に位置する。生物相は北方系の要素が強く、生物地理学的に興味深い地域である。北海道の直翅目昆虫については、西島(1989, 1990)の総説があるが、この地域に絞られた報告は数少ない。

今回、利尻島において採集された直翅目昆虫を検討し、4科12種を確認できたので報告する。標本は全て利尻町立博物館に所蔵されている。標本を貸与の上、執筆の機会を与えて下さった利尻町立博物館の佐藤雅彦学芸員に、多大なる謝意を表す。

バッタ科 Acrididae

1. ハネナガフキバッタ

Ognevia longipennis (Shiraki, 1910)

姫沼 : 5-x-1995 (1 ♀, M. Sato leg.)

6~7月ころ、黒っぽい小さなバッタがフキなどに群がっていることがある。多くの場合はこの種である。幼虫時の体色は黒褐色~茶色をしているが、羽化すると緑色に変化する。

2. ダイセツタカネフキバッタ

Zubovskia koeppeni parvula (Ikonnikov, 1911)

利尻山杓形 : 5-ix-1990 (1 ♂, M. Sato leg.)

利尻山鬼脇 : 2-viii-1991 (2 ♂ 1 ♀ 1 幼虫 ♀ 終令, M. Sato leg.); 2-viii-1992 (1 ♂, M. Sato leg.)

利尻山鴛泊 : 8 ~ 19-vii-1994 (9 幼虫 1 ~ 3 令, M. Sato leg.)ピットホールトラップ

利尻山鴛泊 1400m : 8 ~ 19-vii-1994 (1 幼虫 1 令, M. Sato leg.)ピットホールトラップ

利尻山鴛泊 1200m : 28-vii-1994 (6 幼虫 4 ~ 5 令, M. Sato leg.)

利尻山からは、1986年に確認された(保田, 1987)。北海道においては道東や道北の高山帯に生息し、多種類の高山植物を摂食している。大雪山系では多数の個体が見られるが、利尻山でも個体数は多いようである。採集された幼虫の令構成からすると、利尻山における本種の孵化は7月上~中旬、羽化が8月上~中旬と考えられる。

3. ミカドフキバッタ

Parapodisma mikado (Bolivar, 1890)

姫沼 : 5-x-1995 (1 ♀, M. Sato leg.)

北海道の低山地に広く分布する。ハネナガフキバッタ・サツポロフキバッタと混生することがある。ただし、利尻島からサツポロフキバッタは見つかっ

ていない。

4. トノサマバツタ

Locusta migratoria (Linne, 1758)

仙法志: 15-viii-1995 (1 ♀, Y. Tahara leg.); 21-x-1995 (1 ♀, K. Ishiguro leg.); 18-viii-1993 (1 ♀, F. Fujii leg.)

5. ヒザグロナキイナゴ

Podismopsis genicularibus (Shiraki, 1910)

利尻山鬼脇: 7-viii-1992 (1 ♂, M. Sato leg.)

利尻島: 6-x-1995 (1 ♂, S. Miyamoto leg.)

仙法志: 1-viii-1996 (1 ♂, M. Sato leg.)

利尻島から初記録だと思われる。南千島やサハリンにも分布し、道東では普通に見られる北方系の種である。しかし、これまで道北における分布は明らかでなかった。これまで知られている道東での採集記録は6月上旬～8月であるが、利尻では10月でも採集されているのが特徴的である。「シュシュシュ、シュシュシュシュ、・・・」と鳴く。雌がそばに来ると、絶え間なく鳴き続け、やがて雌の上に飛び乗り、「シャカツ、シャカツ、・・・」と忙しく鳴いて求愛する。

6. ヒナバツタ

Chorthippus biguttulus maritimus Mistshenko, 1951

利尻山鬼脇: 7-viii-1992 (1 幼虫 ♂, M. Sato leg.)

姫沼: 5-x-1995 (1 ♂, S. Miyamoto leg.)

北海道において低地から亜高山まで広く分布し、最も普通に見かけるバツタである。♂は頻繁に「シユルシユル・・・」と鳴く。

アリツカコオロギ科 Myrmecophilidae

7. アリツカコオロギ

Myrmecophilus sapporensis Matsumura, 1904

仙法志: 14-vi-1995 (1 ♂ 1 ♀, M. Sato leg.)

トビイロケアリ *Lasius* (*Lasius*) *japonicus* Santschi

の巣から採集された。アリの巣で生活している。日本国内には近縁種が数種いるとされている。

カマドウマ科 Rhabdophilidae

8. マダラカマドウマ

Diestrammena japonica Blatchely, 1920

仙法志: 4-ix-1990 (1 ♀, M. Sato leg.)

キリギリス科 Tettigoniidae

9. エゾツユムシ

Kuwayamaea sapporensis Matsumura et Shiraki, 1908

仙法志、利尻町立博物館: 29-viii-1990 (1 ♂, T. Ito leg.); 19-viii-1990 (1 ♂, M. Sato leg.)

杓形岬: 16-ix-1996 (1 ♀, S. Miyamoto leg.)

北海道内に広く分布し、かつ普通に見られる。「チツ、チツ、チツ、チキツ・・・」と鳴く。

10. ヒメクサキリ

Ruspolia jezoensis (Matsumura et Shiraki, 1908)

仙法志、利尻町立博物館: 6-ix-1990 (1 ♀, M. Sato leg.)

この種も北海道内に広く分布し、かつ普通に見られる。鳴き声は「ジー・・・」と蛍光灯のノイズのような音が持続する。

11. イブキヒメギス

Eobiana japonica (Bolivar, 1890)

鷺泊: 13-ix-1996 (1 ♂, S. Suzuki leg.)

仙法志、利尻町立博物館: 22-ix-1991 (1 ♂非常に小型の個体, M. Sato leg.)

夏～晩秋に、「ジリッ、ジリッ、ジリッ、・・・」と鳴く。

12. ハネナガキリギリス

Gampsocleis ussuriensis Adelung, 1910

仙法志: 14-ix-1995 (1 ♀, M. Sato leg.)

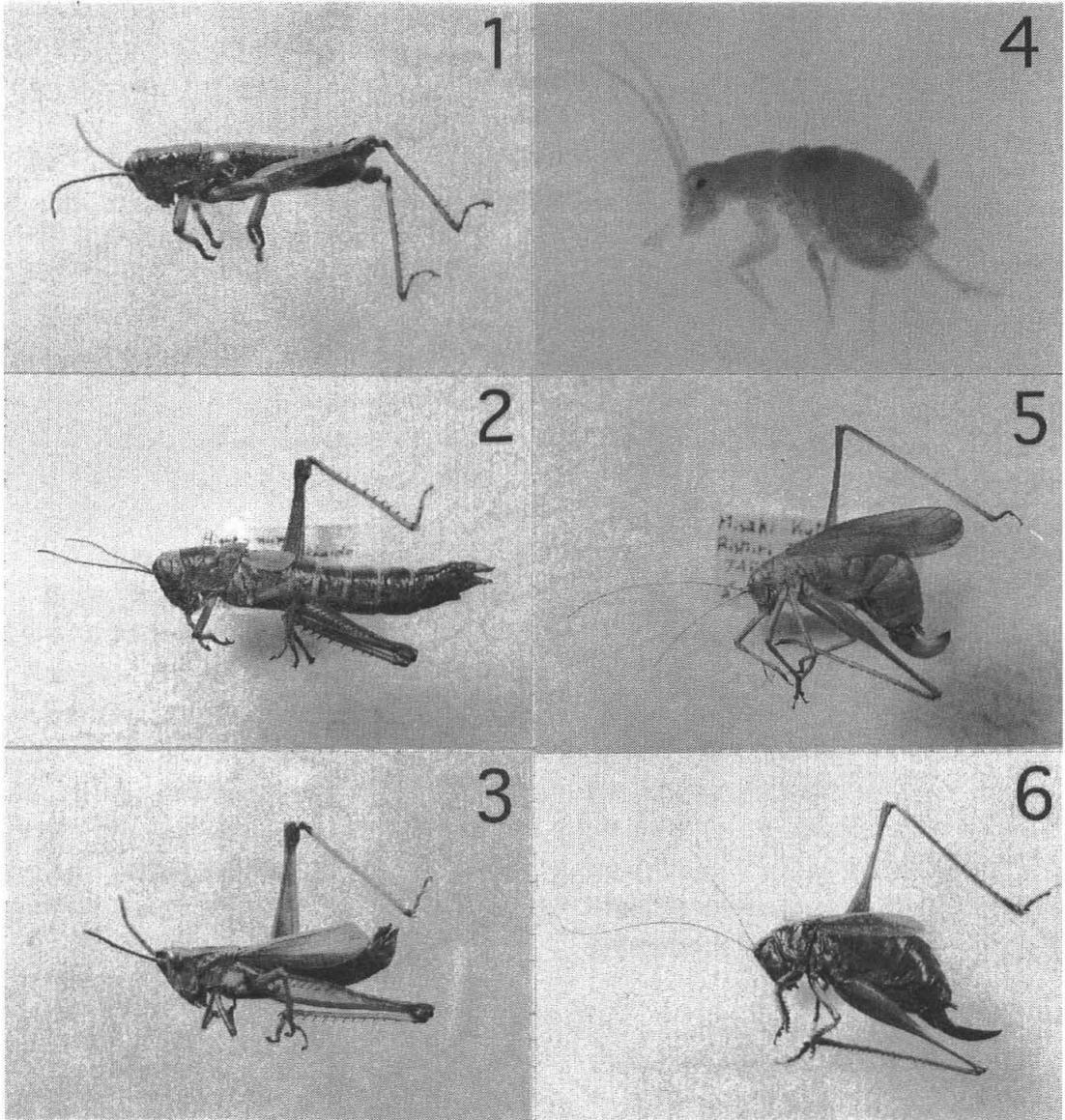


図1-6. 1. ダイセツタカネフキバッタ、2. ミカドフキバッタ、3. ヒザグロナキイナゴ、4. アリツカコロギ、5. エゾツユムシ、6. イブキヒメギス

夏～初秋に、「チョン・ギース」と大きな声で鳴く。

利尻島には、これらの種以外にも、北海道本土またはサハリン・南千島・大陸との共通種が分布しているであろう。今後の調査が待たれる。

引用・参考文献

西島 浩(1989). 北海道の直翅目 —秋を告げる演奏家たちの現状— . 北海道の自然と生物, 1; 34-43.

——(1990). 北海道の直翅目 (続) (付ナナフシ目). Ibid., 2; 14-20.

保田信紀(1987). 利尻山においてダイセツタカネフキバツタを確認 . jezoensis, 14; 63.